

悪い結果となることが解つた。

(イ) 生草収量はマンモスイタリアンAが標準(米国)比103%であつたが、乾物収量(3番草まで)においてはいずれも標準区より下廻つた。

(ウ) 新品種が多く出廻っているが飛躍的な増収を期待することはできない。

(エ) 3番草、4番草の再生状態を観察して大葉光、マンモスAは追肥を十分に施すことによつて、利用期間をのばし、増収も期待できると考えられる。

3. 家畜用ビートの品種別収量調査

(1) 目的

畑作地帯では陸稲の前作として家畜用ビートの栽培例が多いので、品種比較試験を行ない都下畜産農家への指針とする。

(2) 調査方法

供試品種……ハーフシュガーイエロー, パーレス・ストリーネ, シュガーマンゴールド

計3種

試験期間……昭和43年3月21日～8月23日

試験区及び面積……乱塊法3区制 1区10㎡

耕種概要……播種43年3月21日, 播種量200g/a

栽植密度, 75cm×35cm点

施肥量(a当), 厩肥200Kg, 化成1号(15, 15, 12)4Kg

(3) 経過

3月21日播種, 4月1日に発芽し, 所要日数は11日であつた。除草は5月13日と6月27日の2回実施した。5月25日に1回間引で1本立とした。5月中旬アオ虫が発生し被害をこうむつたが、収穫期に近いので防除は行なわなかつた。

(4) 成績及び考察

収量調査は地上部の繁茂最盛期の7月7日地上部, 地下部の合計収量の最も多い時季と思われる7月27日地上部分のほとんどが枯死した8月23日の3回についておこなつた。

ア. 第1回の(7/7)収穫期においてはハーフシュガーイエローがやや劣り, 他の2品種は4,300kg/10a程度で大差はなかつた。シュガーマンゴールドのトップに褐色の空洞が見られたほか, 病害はなかつた。品質はハーフシュガーイエロー, シュガーマンゴールドともに赤味をおび, 肉質やわらかく甘味があつたが, パーレスは皮緑色, 肉は白色で固く甘味もすくなく良質とはいえない。

イ. 第2回(7/27)収穫時においては根重は総体的に伸びたが、葉重においてはハーフシュガーイエローが急速な伸びを示し、逆転して最も多収となつた事が目立つた。総重量は10a当/4.700~4.900kgで大差がなく平均化されてきた。パーレスの葉部に黒斑病が多発し、また大きなヒビ割れが見られたが、その他の品種には見られなかつた。

ウ. 第3回(8/23)収穫時には茎葉は芯だけ残して枯れ上り10a当/800~400kgとすくなく、総収量に占める割合は僅かであつた。一方根部の生育はパーレスストリーネ、シュガーマンゴールドについては前回とあまり変化はなかつたが、ハーフシュガーイエローは前回2.210kg/10aに対して8900kg/10a当で約76%の伸びを示した。

(1㎡3株当)

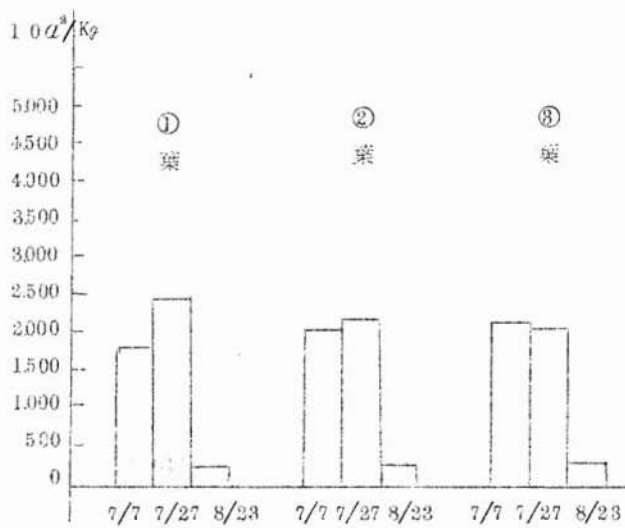
品種	区番号	第1回(7月7日)			第2回(7月27日)			第3回(8月23日)		
		総重量	葉重	根重	総重量	葉重	根重	総重量	葉重	根重
① ハーブ シュガー イエロー	3	3455 ^g	1785 ^g	1670 ^g	4590 ^g	2630 ^g	1960 ^g	2860 ^g	220 ^g	2640 ^g
	5	3880	2330	1550	4640	2470	2170	4680	160	4520
	7	2970	1620	1450	5000	2500	2500	5090	550	4540
	計	10405	5735	4670	14230	7600	6630	12630	930	11700
	(平均)	(3468)	(1912)	(1557)	(4743)	(2533)	(2210)	(4210)	(310)	(3900)
② パール レス ストリー ネ	2	4290	2090	2200	5230	2320	2910	4570	530	4040
	4	5470	2660	2810	5820	2510	3310	2930	410	2520
	9	3130	1530	1600	3870	1920	1950	2580	400	2180
	計	12890	6280	6610	14920	6750	8170	10030	1340	8740
	(平均)	(4297)	(2093)	(2203)	(4973)	(2250)	(2723)	(3360)	(447)	(2913)
③ シュガー マンゴー ールド	1	4360	1830	2530	5410	2470	2940	2900	450	2540
	6	5400	2650	2750	3580	2260	1270	2620	230	2390
	8	3230	2050	1180	5000	1540	3460	2700	380	2320
	計	12990	6530	6460	13940	6270	7670	8280	1060	7220
	(平均)	(4330)	(2177)	(2153)	(4647)	(2090)	(2557)	(2760)	(353)	(2407)

107kg

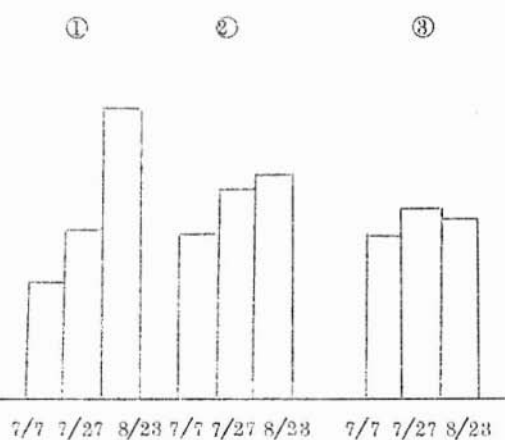
5200
4500
4000
3500
3000
2500
2000
1500
1000
500
0

① ② ③ ① ② ③ ① ② ③ ① ② ③ ① ② ③ ① ② ③ ① ② ③

時期別
葉重推移



時期別
根重推移



家畜用ビートは在圃期間が長く、病気に弱い等の欠点があるが、牧草類の夏枯時に給与できることや糖分含有度が高く、嗜好性が良く多収である点から有効な飼料作物であると考えられるが、都下においては牛の飼料としてよりもむしろ種豚の夏季緑餌として使用した方が適切だと考えられる。それは夏期の牛の飼料は他にもっと栽培し易く、多収な作物がたくさんあるからである。本調査の結果中期における総重量は品種間に大差は認められなかったが、後期において根部の肥大がよく肉質のよい①ハーフシュガーイエローが都下に適する品種であると考察する。

4. とうもろこし品種別スジ萎縮耐病性ならびに播種期別スジ萎縮病発生調査

(1) 目的

関東東山地域は数年前より東京、千葉、神奈川を除く各県で玉蜀黍のスジ萎縮病が発生し、都下においても42年に西多摩を中心として大被害を蒙ったので、この病害に抵抗性が強いといわれる甲州種と白デントコーンの耐病性を比較すると同時に西多摩地域における本病発生状況を調査し、今後の病害対策に資する。

(2) 調査方法

ア. 供試品種

白デントコーン、甲州種

試験地及び面積

東京都畜産試験場内 1 区 $\frac{1}{4}$ a、単区制

栽培方法

畦巾 75 cm、株間 50 cm (3 粒点)、施肥 (a 当)、厩肥 150 Kg、化成 1 号 4 Kg、

種子 (a 当)、白デント 350 Kg、甲州 250 Kg

播種月日

43 年 4/1, 4/10, 4/20, 5/1, 5/10, 延 5 回、10 区

イ. 別に西多摩地域におけるスジ萎縮病発生状況を現地調査する。